

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

F. その他

①大学院生・研究者等の積極的な受入・派遣等

《理工農系》

●大阪大学基礎工学研究科物質創成専攻

「継続的交換留学制度の構築に基づく人材育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

海外の有力大学研究所等への大学院学生の3ヶ月以内の短期派遣と、これらの組織からの大学院学生、留学生の短期受け入れ。これを活用した討論会、セミナーの自主開発など自発的研究力啓発教育の充実。さらに派遣留学システムを組織的、包括的に進めることによる、教員の経験に強度依存しない研究科としての派遣受け入れシステムやそのためのノウハウ、インテリジェンスの確立。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

これまで多くの研究、教育プロジェクトにおいて、大学院生の海外派遣、受け入れはプロジェクトの目玉として取り上げられてきた。我が大学においても、多くの大型プロジェクトで、こうした取り組みがなされてきた。ところが、組織として戦略もなく、教授の個人チャンネル任せでこれを推進すれば、その教授は自分の研究室成果を大学の成果として報告しプロジェクトは成功裏に終わるものの、後には何も残らない。その教授が、国際交流ノウハウを門外不出の秘伝として決して外部に語らないからである。まさに、放っておけば必ず20人程度の単位の利害でしか動くことができない日本民族の限界である。この教育プロジェクトでは、こうした単発打ち上げ花火におわり後には何も残らない大型プロジェクトと同じ運命には決して終わらせまいという、圧倒的決意の元に進められた。そのために大学院教育改革推進室の立ち上げと、全体掌握、情報の一元化などを行った。これと同時に、派遣受け入れを最大限に有効化するため、新科目導入や旧科目の改革、成績評価見直し、優秀賞授与などのシステム構築を行った。最終的にこうして蓄積したインテリジェンスとシステムを、次期プロジェクトへ継承することの重要性を表明し続け、以下に述べるようにそれを達成した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

海外留学や留学生を交えた自主開催セミナー、英語プレゼンテーション、成績厳密評価と成績優秀賞授与など、新しい教育システムが定着した。またそれらを通じた、競争原理と自発的研究力啓発に基づく重層的な取り組みによって、大きな教育効果が得られた。さらに、問1-3で論じたこれらの教育効果の継続性に

に関して、基礎工学研究科において国際交流推進室が設置され、教員、学生の派遣受け入れを含めた総合的取り組みが継承された。さらに「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」「国際化拠点整備事業（グローバル30）」「大学院GP」などの大型教育プログラムが研究科であいついで採択され、さらなる取り組みが継続できる基盤の獲得に成功した。